

～環境学館いづみ運営ボランティアによる「いづみガイド」～

9月のデキゴト

9月3日（日）開催 生活環境講座

環境学館いづみで、今年度2回計画されている生活環境講座の第一回目が開催されました。

テーマは「海なし県から川でつながる海洋マイクロプラスチック汚染を考える」です。

講師は、埼玉県環境科学国際センター水環境担当の田中仁志先生です。

講座には、まだ残暑厳しいところ、15名と大勢の方にご参加いただきました。やはり、近年環境問題として関心が高まっているテーマということだと思います。



田中仁志先生

講座の内容は、次の5項目です。

1. 埼玉県は川で海とつながっている
2. 海とのつながりを示す魚たち
3. 海洋プラスチックごみ問題
4. 海なし県は海洋マイクロプラスチック汚染とは無関係でよいのか?
5. マイクロプラスチックを減らすには?

次に、田中先生のご説明の一部を紹介します。

<1. 埼玉県は川で海とつながっている>

- ・埼玉県は西高東低で、坂戸は西に源流のある荒川水系の台地と低地の境に属し、水質は良好である。

<2. 海とのつながりを示す魚たち>

- ・埼玉県でも太平洋と直接つながっている利根川水系では、川と海を行き来するウナギやサケがいる。

<3. 海洋プラスチックごみ問題/>

4. 海なし県は海洋マイクロプラスチック汚染とは無関係でよいのか?>

- ・浜辺に漂着したプラスチックが散乱している。

埼玉県の河川でもプラスチックごみがたくさんある。



漂着しているごみを調べてみると、ペットボトル(3~10%)、プラスチック製品(3~23%)、発泡スチロール(~20%)と、プラスチック類が多い。

- ・動物への被害として、プラごみが生物に絡まったり、誤食したりの影響がある。

マイクロプラスチックとは、大きさ5mmより小さいプラスチックである。最初から小さいものと、古くなって粉々になるものもある。(例 洗濯はさみ)



〈5. マイクロプラスチックを減らすには?〉

- ・今日から始められることを考えよう!

3R ~私たちが取り組める第一歩~



田中先生のご説明が終わってから、参加者からの質問を受けられました。

Q1 一人ひとりがプラスチックごみを減らさないといけないが、行政の意識も重要と思います。環境科学国際センターとして、こういった働きかけをしていますか?

A 自治体とのごみ協議会や市長の会等で話すことがあります。

Q2 プラスチックごみの問題に対して、こういった働きかけがよいのでしょうか?

A 小学校への教育は大切です。

Q3 「ゴルフ練習場のマットはプラスチックで出来ており、擦れると細くなる」「排水関係で細かいプラスチックが流れ出る」といったことに対して、法律や条例で規制できないのでしょうか?

A 今のところ特にできていません。

まだまだ質問がありそうでしたが、講座終了の時間となってしまいました。



講座風景

田中先生の写真やデータを基にした解かり易いご説明を聞いて、改めて世界的喫緊の課題である海洋プラスチック汚染について、「何とかしないと!」との思いを強くしました。

一人ひとりにまずできることは、プラスチックごみの減量「3R」でしょう。